

# 「生産性革命プロジェクトの推進」 ～ ICT 活用工事における ICT アドバイザー登録制度～

i-Construction 中部サポートセンター

## 1. はじめに

今後、わが国において生産年齢人口が減少することが予想されている中、建設分野において、生産性向上は避けられない課題です。

このような状況を踏まえ、国土交通省では、平成 28 年を「生産性革命元年」と位置付け、建設生産プロセス全体で生産性を向上させる i-Construction の取り組みを開始しました。

中部地方整備局では、平成 28 年度から土工、平成 29 年度から浚渫工、舗装工、砂防について ICT を活用する工事を本格導入し、推進しているところです。

## 2. i-Construction 中部サポートセンターの設置

建設 ICT 技術の現場普及にあたり、i-Construction についての問い合わせ・相談の受け付け、研修の開催等のサポートおよび、施工者の技術導入を促進するために平成 28 年 4 月 1 日に「i-Construction 中部サポートセンター」を設置しました。

## 3. ICT アドバイザー登録制度

平成 29 年 3 月 24 日より、i-Construction のさらなる普及・促進に向け、発注者（自治体や特殊法人等）や工事の受注者（地元建設会社等）が、ICT 技術の先駆者である「ICT アドバイザー」から、自主的に技術習得や能力向上へのアドバイスが受けられる仕組みの「ICT アドバイザー登録制度」を始めています（図-1）。

昨年行われた i-Construction 中部ブロック推進本部第 2 回会議では、委員長である中部地方整備局長より 11 社 18 人が任命を受け（写真-1）、平成 30 年 4 月時点では、30 社 64 人もの ICT アドバイザーを、中部地区管内全域に配置することができ、i-Construction の普及促進を加速することができると考えています。



写真-1 ICT アドバイザー認定

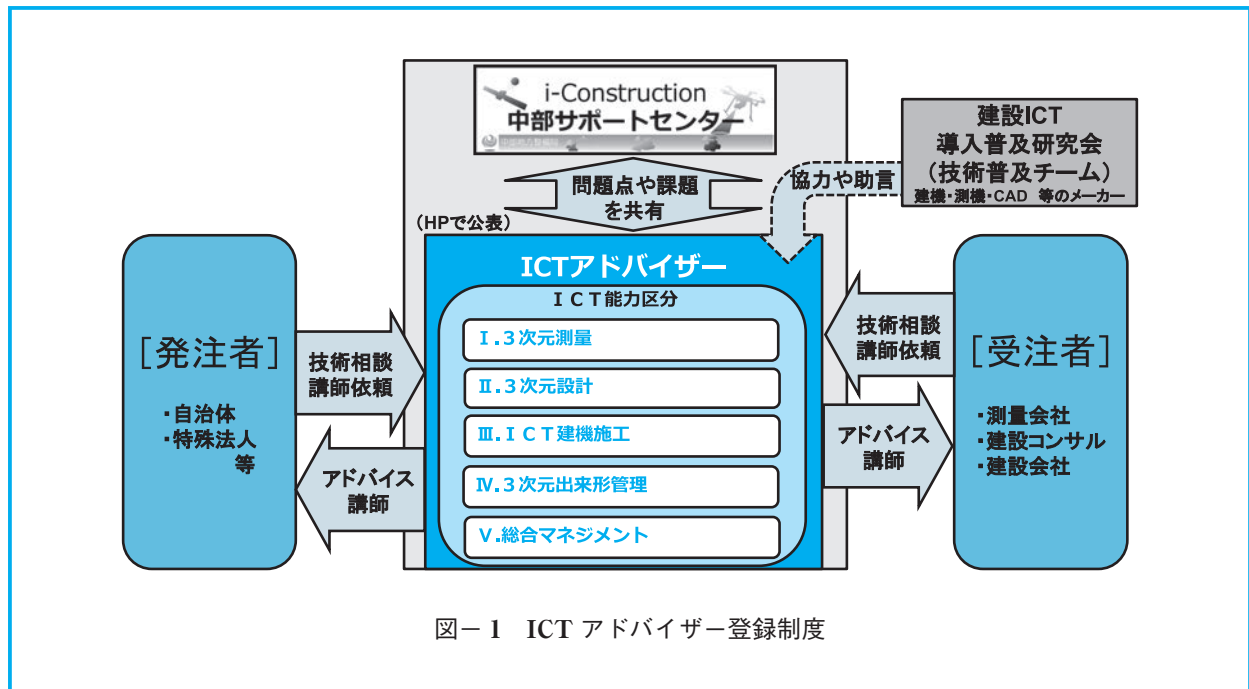


図-1 ICTアドバイザー登録制度

#### 4. 制度概要

登録できる技術者は、測量会社、建設コンサルタント会社、建設会社に所属し、ICTに関する専門知識を持ち、ICT能力区分のアドバイスを実施できる者として、以下の条件を満たす者とする。

- (1) 技術者が所属する会社が、中部管内に本店があること。
- (2) 工事および業務（発注機関は問わない）の元請けまたは下請けとして、過去10年間に、会社と技術者個人の両方の実績を有すること。
- (3) 各ICT能力区分における実績は、会社の実績・技術者の実績がそれぞれ1件有すること。

なお、ICTアドバイザー能力区分は、以下のとおりです。

- I. 3次元起工測量
- II. 3次元設計データ作成
- III. ICT建機施工
- IV. 3次元出来形管理
- V. 総合マネジメント

※ I～Vの個々の区分、もしくは2区分以上の組み合わせ

せの実績が必要となります。

登録申請書を「i-Construction 中部サポートセンター」で審査を行い、要件を満足するものについて登録を行います。

#### 5. 活動事例紹介

ICTアドバイザー活動内容としては、地方自治体や受注者に技術相談・研修活動や現場指導などを主に行っています（写真-2, 3）。

また、中部サポートセンターでは学生向けの広報活動に、大学生、高校生、その他専門学校生向けに「高校生・大学生のためのICT講座」として学校への出前講師や現場でICT技術実習を各県で実施するなど、将来の技術者が新しい土木の可能性を見出し、未来を切り開く場を設ける取り組みを行っている中で、ICTアドバイザーにもサポートしてもらっています（写真-4）。



写真-2 空中写真測量の説明



写真-5 ICT アドバイザー会議状況



写真-3 企業向け講習会



写真-4 学生向け体験学習

## 6. ICT アドバイザー会議の開催

昨年12月に総勢36人のICTアドバイザーが集まり、これまでの活動の紹介や、活動を通じて感じたこと、今後の活動方針などについて意見交換する場を設けました(写真-5)。

会議では意見交換が活発に行われ、その中には、「ICT建機により仕上げ整形の技量不足が補

われるだけでなく、3次元で現場がわかりやすくなり全体の段取りもたてやすくなるメリットもある」、「高校を出たばかりのような若手は丁張りを覚えるのに数年かかるが、ICT建機であればすぐに現場で実戦力として活躍できる」、「経験や感じた内容を、発注者・施工者に向けてICTの魅力伝えることが重要」との発言やアドバイザーが自主的に自分たちの立場からのQ & Aを作成したいとの意見もありました。

今年度も年末に意見交換会を計画しているので、1年経ってまた違う活動経験からの意見交換ができればと思っています。

## 7. おわりに

ICTは技術的に難しく敷居が高いイメージを持つ企業もまだ多く、実際に経験を積んだ「ICTアドバイザー」に相談して一歩踏み込んでほしいという思いがあります。

また、サポートセンターでは現場研修や講習会などICTアドバイザーとともに活動を行っています。すでに、各種のセミナーや中部地整職員向け研修の講師としての活動等、平成30年は、i-Construction「深化の年」と位置付け、ICTのすそ野が広がるようなICTアドバイザー活動を期待しています。